別表第5

補強コンクリートブロック造の建物の耐力度調査票

(表面)

Ⅳ 学校種別	Ⅴ 整理番号

Ⅰ 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日			Ⅲ結果点数	
					調査者	職名	建築士登録番号	氏名	Ⓐ 構造耐力	耐力度
								㊞	点	Ⓐ×Ⓑ×Ⓒ
									Ⓑ 保存度	

Ⅱ 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積		建物の経過年数		被災歴		補修歴		
				一階面積	延べ面積	建築年	経過年数	状況	被災年	内容	補修年	点
			＋	m²	m²	明治 大正 昭和 平成 年	年		明治 大正 昭和 平成 年		明治 大正 昭和 平成 年	Ⓒ 外力条件
												点

Ⓐ 構造耐力																									評点合計
	① 保有耐力	a 水平耐力 q	階	方向	垂直部材耐力Qo	建物重量 w	層せん断力分布係数Ai	方向別水平耐力 Qo/WAi	qx又はqyの最小値	判別式		評点							
				けた行 X				qx		q≧0.75	1.0	㋐	㋔=㋐×㋑×㋒×㋓=	㋕ (㋔×50)	(㋕+㋖+㋗+㋘)				
				張り間 Y				qy		0.75>q>0.3	直線補間								
										q≦0.3	0.3								
		b コンクリートブロック強度 α		種別標準強度 fN			圧縮強度 fB		α＝fB／fN	判別式		㋑							
				旧A種 30kg／cm² A種 50kg／cm² B種 70kg／cm² C種 90kg／cm²						α≧1.0	1.0								
										1.0>α>0.5	直線補間								
										α≦0.5	0.5								
		c 偏心率 Re		偏心距離e		弾力半径re		Re＝e／re	Reの最大値	判別式		㋒							
				けた行方向x	張り間方向y	けた行方向x	張り間方向y	けた行方向x	張り間方向y										
										Re≦0.15	1.0								
										0.15<Re<0.3	直線補間								
										Re≧0.3	0.7								
		d 臥梁スラブ構造 m		臥梁寸法 m1			スラブ(屋根) m2		m＝m1×m2	評価		㋓							
				基準値を満足		基準値を満足しない	鉄筋コンクリート	その他	1.0	m＝1.0	1.0								
									0.9	m＝0.9	0.9								
				1.0		0.9	1.0	0.9	0.81	m＝0.81	0.8								
	② コンクリート圧縮強度 K		設計基準強度						K＝Fc／150	判別式		評点							
			設計図書有り Fc＝ kg／cm²			設計図書無し kg／cm²				K≧1.0	1.0	㋔	㋖(㋔×10)						
										1.0>K>0.5	直線補間								
										K≦0.5	0.5								
	③ 基礎構造 β		木杭		RC杭・ペデスタル杭		独立基礎・その他杭・不明			評価		評点							
			0.8		0.9		1.0			該当値の最小値		㋗	㋘(㋗×20)						
	④ ブロック種別		旧A種		A種		B種		C種	評価		評点							
			0.8		0.9		1.0		1.0	該当値の最小値		㋙	㋚(㋙×20)						

Ⓐ 点

Ⓑ 保存度

① 経過年数 (残存率T)	経過年数 t	判別式																	
	年	$T=\frac{38-t}{38}$																	
② コンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	ⓐ コンクリート中性化深さ	部位	臥梁1	臥梁2	基礎梁1	基礎梁2	平均値a	判別式											
		中性化深さ a						a≦1.5cm											1.0
								1.5cm<a<3cm											直線補間
								a≧3cm											0.5
	ⓑ 鉄筋かぶり厚さ	部位	臥梁1	臥梁2	基礎梁1	基礎梁2	平均値b	判別式											
		かぶり厚さ b						b≧3cm											1.0
								3cm>b>1.5cm											直線補間
								b≦1.5cm											0.5
③ 充てんコンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	ⓐ 充てんコンクリート中性化深さ	部位	縦目地1	縦目地2	横目地1	横目地2	平均値a'	評価											
		状況						1	2以下	3以下	4以下								5
		ランク a						1.0	0.9	0.8	0.7								
	ⓑ 鉄筋かぶり厚さ	部位	縦筋1	縦筋2	横筋1	横筋2	平均値b'	評価											
		状況						1	2以下	3以下	4以下								5
		ランク b						1.0	0.9	0.8	0.7								
④ 鉄筋腐食度 F	部位	臥梁	基礎梁	縦筋	横筋	平均値F	評価												
	状況						1	2以下	3以下	4以下								5	
	ランク						1.0	0.9	0.8	0.7									
⑤ ひび割れ C	部位	臥梁、基礎梁	床	ブロック壁1	ブロック壁2	c又はc'の最大値	評価												
	状況						1	以下 2	以下 3	以下 4								以	
	ランク																		
	平均値	c		c'			1.0	0.9	0.8	0.7								0	
⑥ 不同沈下量 φ	階	相対沈下量ε		スパンL		φ=ε/L		φの最大値	判別式										
		けた行方向 X	張り間方向 Y	けた行方向 X	張り間方向 Y	けた行方向 X	張り間方向 Y												
									φ≦1/500										1.0
									1/500<φ<1/200										直線補
									φ≧1/200										0.5
⑦ たわみ量	たわみ量δ		スパンL		θ=δ/L		θの最大値	判別式											
	床	はり	床	はり	床	はり													
								θ≦1/300											1.0
								1/300<θ<1/200											直線補
								θ≧1/200											0.5
⑧ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積so	被災率S	判別式											
	被災床面積	s1	s2	s3	s4		S=st/so	S=0											1.0
	評価後被災面積 st	st=s1+s2×0.75+s3×0.5+s4×0.25						0<S<1											直線補
								S=1											0.5

Ⓒ 外力条件	①地震地域係数		②地盤種別		③積雪寒冷地域		④海岸からの距離		評価	評点
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	$C=\frac{(1+2+3+4)}{4}$	Ⓒ
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9	$C=\frac{(+\quad+\quad+)}{4}$	
	二種地域	0.85								
	一種地域	0.8	三種地盤	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8		

(裏面)

学校名	

1　調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は他と区別できるような太線とする。
2　寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3　平面図に、ブロック強度、コンクリート圧縮強度、コンクリート及び充てんコンクリートの中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度の測定位置を記入する。
4　余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

調 査 者 の 意 見